

川越町の子どもたちの学力向上に向けて

～全国学力・学習状況調査の結果報告～

令和3年11月19日

川越町教育委員会

川越町立川越南小学校

本年5月、小学校6年生及び中学校3年生を対象に実施された「全国学力・学習状況調査」の結果概要をお伝えします。川越町教育委員会では、結果からわかる、子どもたちの「強み」「弱み」等の傾向をとらえ、具体的な施策に反映していきます。つきましては、保護者の皆様には、家庭生活や生活習慣の見直しに向けてご協力をお願いいたします。

なお、この調査は学力の特定の一部を測るものであり、学力のすべてを測るものではないことをご理解ください。

1. 学力・学習状況調査結果



(1) 学力調査の結果

□全体の傾向・・・正答率の低い児童数は減少し、学力の向上が顕著に表れている。

国語：正答率の低い児童が少なく、正答率が中位からやや高い児童が多くみられる。

算数：正答率の低い児童が多少見られ、正答率の中位の児童が多い。

	強みと弱み（強み・・・「◎」 弱み・・・「◇」）
国語	◎目的や意図に応じて、理由を明らかにしながら、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。 ◎基礎基本となる漢字の習得や文の構成（主語や述語など）の理解ができている。 ◎全体的に無解答率が低い。 ◇目的や意図に応じて、文章と図表とを結び付けて必要な情報を見つけて書く力に課題がある。 ◇目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約する力に課題がある。 ◇語句の使い方を理解し、話や文章の中で使う力に課題がある。

算数	◎データをもとに表に整理することができる児童が多い。
	◎基準量を1としたときに、比較量が示された小数に当たる理由を記述できる児童が多い。
	◎全体的に無解答率が低い。
	◇二つの道のりの差を求めるために必要な数値を選び、その求め方と答えを記述する力に課題がある。
	◇速さを求める除法の式と商の意味を理解できていない児童の割合が多い。
	◇複数の図形を組み合わせた図形の面積について、量の保存性や量の加法性を基に捉え、比べる力に課題がある。

(2) 児童質問紙による生活調査結果

① 学習時間帯

Q：学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしていますか（学習塾や家庭教師、インターネットで学ぶ学習も含む）

・学習時間が1時間以上の児童の割合・・・全国：62.5％ 川越町：69.3％

***毎日1時間以上学習する児童の割合が70%ほどあり、家庭学習に対する意識が高まっている。**

② 計画的な家庭学習

Q：家で自分で計画を立てて勉強をしていますか。

・（どちらかといえば）している児童の割合・・・全国：74.0％ 川越町：80.3％

***約80%の児童が計画的に家庭学習に取り組んでいる。**

③ 読書習慣

Q：学校の授業以外に、普段（月～金曜日）どのくらい読書をしますか。

・1日の読書が30分以上の児童の割合・・・全国：37.4％ 川越町：32.7％

・読書を全くしない・・・全国：24.0％ 川越町：20.4％

***30%の子どもたちがほぼ毎日30分以上読書をしているが、その一方で、「全く読書をしていない」子どもたちの割合が20%となっている。**

④ 基本的な生活習慣

Q：毎日、同じくらいの時刻に起きていますか。

・起きている児童の割合・・・全国：55.0％ 川越町：50.3％

Q：毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか。

・寝ている児童の割合・・・全国：38.3％ 川越町：40.8％

Q：朝食を毎日食べていますか。

・食べている児童の割合・・・全国：85.8％ 川越町：87.8％

***起床時刻に関しては、不規則な児童がやや多い。**

⑤自尊感情

Q：自分には、よいところがあると思いますか。

・（どちらかといえば）あると答えた児童の割合・・・全国：76.9% 川越町：73.5%

***「自分には、よいところがある」と思っていない児童が2割以上いる。**

⑥キャリアの形成

Q：将来の夢や目標を持っていますか。

・（どちらかといえば）持っている児童の割合・・・全国：80.3% 川越町：81.0%

***将来の夢や目標を持っている児童が多い。**

⑦スマートフォンやコンピュータの使い方

Q：携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか。

・（だいたい）守っている児童の割合・・・全国：70.1% 川越町：63.3%

***約束を守れている児童は60%程度にとどまっている。**

⑧主体的・対話的な深い学びについて

Q：今まで受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか。

・（どちらかといえば）取り組んでいた児童の割合・・・全国：78.2% 川越町：81.7%

Q：今までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していたと思いますか。

・（どちらかといえば）工夫して発表していた児童の割合・・・全国：63.5% 川越町：59.9%

Q：児童生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか。

・（どちらかといえば）できていると回答した児童の割合・・・全国：78.8% 川越町：81.6%

***主体的に学習しようとする児童生徒の割合は81%となっているが、自分の考えをうまく伝わるように工夫して発表することは苦手である。**

(3) 学校質問紙の結果からみえる児童の姿

- ① 表現する力・書く力をつけていくために、「言語活動について、国語科だけではなく、各教科、特別活動などの時間を通じて、学校全体として取り組んでいますか」という問いに対し、本校では全校的に取り組んできたので、「よく行った」と回答しています。こういった取組から、町の重点でもある「書く力」の向上が見られ、国語科や算数科での記述問題が強みに転じてきたと思われます。今後も継続して全教科・全領域において、言語活動の充実に向けた取組を進めていく必要があるととらえています。

- ② 主体的・対話的で深い学びに向けた授業に向けて、「これまでに授業の中で目標（めあて・ねらい）を児童に示し、授業の最後に学習したことを振り返る活動を計画的にとりいれましたか」という問いに対し、本校では「よく行った」と回答しています。児童質問紙の「学習した内容について、分かった点やよく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」の問いに対して、8割程度の児童が肯定回答をしています。児童が見通しを持って授業に臨むことができ、「何を学ぶのか」という目的意識をもちながら授業に参加できていることがうかがえます。また、自己の学習を振り返り、次の学習につなげる「学習を調整する力」が身につけてきていることもうかがえます。

- ③ 「これまでに児童のよい点や改善点などを積極的に評価し、学習したことの意義や価値を実感できるようにしましたか」という問いに対し、「取り組んでいる」と回答しています。教育活動の様々な場面で児童一人ひとりの頑張りを認め、評価していくことに取り組んでいますが、子どもたちの自尊感情の高まりにまだまだつながっていない状況です。今後も児童一人ひとりの良い点や改善点を積極的に認めていく機会を意識的に設定し、自己肯定感・自己有用感の高まりへつなげていく必要があるととらえています。

2. 学力・学習状況調査結果の「弱み」を改善するための対策



全体を通して

全教科において、教科特有の「見方・考え方」、つきたい力を明確にし、児童生徒自身が「何ができるようになるか」を明確にしながら「何を学ぶか」という学習内容だけでなく、「どのように学ぶか」という学習課程を重視した授業改善を進める。

1. 「めあてとふりかえり」（目標の提示、振り返り活動）のある授業の徹底を図り、子どもたちが一時間の授業の中で「できた・わかった」と実感が持てる学習へつなげる。
2. 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を行う。
3. 自分の考えや必要な情報を整理して書く力をつけるための指導を行う。
4. 一人一人の学習状況を十分とらえ、少人数による効果的な指導を行う。

国語

1. 書くことの指導の充実

- ・書く活動において、児童生徒の興味関心に応じた題材を設定したり、目的や相手を明確にしたりすることで、児童生徒が主体的に取り組めるように工夫する。
- ・発達段階に応じて「字数制限やテーマなどの条件を与えて書く活動」を、授業の中に継続的に取り入れていく。（国語に限らず他教科においても「条件を与えて書く」活動を行っていく）
- ・自分の考えを書く活動では、主語と述語の関係や修飾と被修飾の関係に気を付けながら文を整えることが、自分の思いや考えを正確に伝える上で重要であることに気づくことができるよう指導する。

2. 語彙（ごい）を豊かにする指導の工夫

- ・文脈に即した漢字や語句を習得するために、例文やフレーズで覚える学習を取り入れる。
- ・いろいろな文章や作品に出会わせるために、読み聞かせの機会を充実したり、選書コーナーを設置したりするなど、各校において読書活動や学校図書館での活動を工夫する。

3. 自分の考えをまとめる活動の充実

- ・授業における話し合いや毎時間のめあてに対するふりかえりの中で、自分の考えをまとめる活動を取り入れる。発達段階や内容に応じて、字数制限やキーワードを提示するなどの条件を与えて書かせるようにする。
- ・自らの問題解決に必要な資料や情報を選択・活用し、友だちと互いに意見を出し合って自分なりの考えをまとめる活動を取り入れる。
- ・学習したことが日常生活につながっていることを意識できるような授業づくりを心がける。

4. 文章の中の大切な文や語句に着目しながら、文章全体を捉える力をつける

- ・文章中の大切な文や語句に着目しながら読み進め、大まかな「あらすじ」をつかんだり、文章を要約したりする学習活動を行う。

算 数

1. 基礎的な力をつける時間の確保

- ・基礎となる内容の定着のために、ていねいに指導できる時間の確保と家庭学習の充実を図り、定着に向けた取り組みを進める。

2. わかる授業を目指した授業展開の工夫

- ・社会の事象や数学の事象から課題を見出し、児童生徒が主体的に取り組める授業を展開していく。また、算数・数学の時間に学習したことを日常生活の中で活用できるように工夫する。
- ・算数・数学用語、数学的な表現を用いて「◎◎であるから、△△である。」の形式で記述させたり発表させたりする。
- ・言葉や数・式と、図・表・グラフなどを関連付けた授業を取り入れる。
- ・「ふりかえり」の時間を大切にするとともに、子どもたちの理解度を測る評価問題などを適切に取り入れる。

3. 図形の性質や構成要素を正しくイメージし理解できるような工夫

- ・実際に具体物を使って操作させるなど、経験させる活動時間をしっかりと確保する。
- ・「図形イメージの確認や理解」を視覚的に理解しやすくするために ICT 機器の活用を積極的に行う。

3. 町教育委員会による手立て



(1) 少人数教育の充実

少人数での指導体制を継続し、国語科および算数・数学科を中心とした基礎的基本的な力の向上を目指します。

(2) きめ細やかな指導体制の充実

町非常勤講師や学習支援員及びA L Tの配置を生かした指導のあり方をさらに充実し、一人一人の子どもたちが学びやすい環境づくりを進めます。

(3) 学力向上推進委員会の開催

川越町学力向上推進委員会において、各学校の児童生徒分析や取組について協議・情報交流を行い、子どもたちの学ぶ力を伸ばすための授業改善を進めます。また、川越町全体で進める学力向上策について検討します。

(4) 校内研修等への訪問指導・支援

北勢教育支援事務所および町教育委員会の指導主事、学力向上アドバイザーが各校へ訪問し、学力向上に向けた校内研修への指導・支援を進めます。また、学力の定着を図るための授業のあり方について、教職員に向けた継続的な直接指導を進めます。

(5) 家庭学習および読書活動の推進

各校が配付している家庭学習の手引きやシラバス（授業計画）をもとに、家庭学習の定着に向けた取組を進めていきます。また、「読書旅行（読書日本一周・読書世界一周）」の取り組みを推進し、小学校低学年から本に触れ合う機会を増やし、語彙量（ごいりょう）を増やしていきます。

「豊かな心」を土台とした社会で生きていく力の育成

2019 年 4 月に改定しました川越町教育基本方針で示した通り、川越町は【「豊かな心」を土台とした社会で生きていく力の育成】を基本方針としています。「知」知識・技能、「情」情操、「意」意思の 3 つがバランスよく調和することが、子どもたちが「社会で生きていく力」となります。豊かな心を養うために、「非認知能力を高めること」「個性を大切にすること」「相手の個性を尊重すること」を意識してすべて教育活動を行っていきます。

4. 川越南小学校の取り組み



(1) 「読む」ことを前提とした「書く」活動の充実と定着

本校児童の弱みである「文章題を読み取ったり算数的事項を言葉で説明したりする力」「条件に合わせて書いたり要約したりする力」を身に付けさせ、伸ばしていくために、「書くこと」「説明すること」を意識した授業に取り組んでいます。言語を介して学習をするので、子どもたちの語彙を増やすよう、読書や意味調べも大切にしています。

(2) 算数科における少人数・習熟度別授業の推進

個別の子どもたちに合わせた、きめ細やかな指導が行えるように体制を整備しています。

1・2年生では、各学級に毎時間支援員が入り学習を支援しています。3年生では、学級担任の他にもう一人の教員が入り、2人で授業（ティームティーチング）を行っています。4・5・6年生では習熟度別に分かれて学習を進めています。習熟度別コースの選択は、單元ごとに変更でき、児童の学習状況や希望などを合わせて柔軟な編成を行っています。

どの学年においても、教職員の情報共有を密にし、一人ひとりのつまずきに寄り添い、基礎学力の定着に取り組んでいます。

(3) 全国学力調査の内容・結果の分析及び検討を授業づくりへ活かす

4月当初の校内研修会では、教員全員が、前年度の全国学力調査を実際に解きながら昨年度の結果を見直しました。児童の強みと弱みを学習指導要領の指導内容と結び付けながら、日々の授業をどのように改善したらよいのかを考え、実践に取り組んでいます。

(4) 指導力向上に向けた校内研修の充実

全国学力調査・みえスタディチェックの結果を受けて、「書く」ことの力を育てるために、昨年度からは国語科を中心とした研修を進めています。年度当初には、外部から講師を招き、実際に子どもたちに授業をしてもらうことで、具体的な指導法を学びました。また、8月には全教員で、教材研究ワークショップを行い、具体的な授業づくりの方法を学び合いました。

さらに、1年を通して全員が授業公開を行い、講師の指導助言を受けながら、指導力向上につなげています。

5. 家庭・地域へのお願い



(1) 家庭学習の習慣を定着させる・・・見守る、声をかける

子どものノートや学習したプリント等にできるだけ目を通し、「見守り・声かけ」をしていただくようお願いします。家庭学習を継続させるためには、声をかける、頑張りの過程をほめる、励ますことです。子どものやる気を引き出すことも保護者の役割です。

【家庭学習を習慣化するポイント】

《児童・生徒》

- ・毎日、決まった時間に決まった場所で勉強する。
- ・テレビ・スマートフォン等の電源を切って、集中して勉強する。
- ・机の上をかたづけて、良い姿勢で勉強する。

《保護者》

- ・カレンダーに「○」を付けるなど、学習の記録を記すようにし、子どもたちの頑張りを「見える化」し、ほめる。

(2) 家庭内のルールをつくる・・・思いやりの心につながる

テレビやゲームを楽しむ時間や、スマートフォンを使用する時間、方法などについて、家庭でのルールづくりをしていただきますようお願いします。家族同士の触れ合いはコミュニケーション能力の向上にもつながります。また、ルールづくりは子どもの自制心・誠実さ・忍耐強さにつながることはもちろんですが、思いやりや共感力を育みます。

例) 毎週水曜日は「ノーテレビ・ノーゲームデー」にする。

夜の10時以降は、携帯電話やスマートフォンを使わない。 など

(3) ほめる・認める・・・自己肯定感・自己有用感を高める

今回の児童生徒質問紙の結果からも、「約20%以上の児童生徒が、じぶんには良い所があると感じられない」という状況がみられました。子ども達は個々によって得意なことや苦手なことは様々です。「家族で決めた約束が守れた」「苦手なことにも挑戦した」など、子どもが何かを継続して行ったときや、前向きに挑戦した、以前よりも進歩や成長が見えたときには、その機会を見逃さず、きちんとほめましょう。成功や失敗、順位や点数等だけに注目するのではなく、過程を大切に、子どもの意思で行動したことを評価することが大切です。

【子どものほめ方のポイント】

- 他の子（友だちやきょうだい）と比べてほめない
- よかったことを具体的にほめる
- 結果（順位や点数等）に注目せず、努力したことをほめる
- その場ですぐほめる

「ほめて伸ばす」ことは、「叱ってはいけない」ことではありません。子どもが「なぜ、叱られたのか」を納得できるような叱り方をして、目指すべき良き行動がとれるように導いていきましょう。

(4) 親子で読み聞かせや読書をする機会を大切にする・・・家庭読書習慣

読書活動は、使う言葉の幅が広がり表現力が向上し、より豊かな会話につながります。いろいろな考え方に接したり、想像力を膨らませたりすることにより、共感力や発想力が生まれます。「語彙（ごい）の量と質」の違いが学力差に大きく影響しているとの指摘があります。まずは、おうちの方からの読み聞かせや、テレビの時間を読書の時間に変えることから始めましょう。

みえの学力向上県民運動

学校・家庭・地域の教育力を高めよう！

みえの学力向上

検索

